

令和2年度「港湾施設の維持管理に関する技術講習会(第2回)」を開催

東北地方整備局では、管内の港湾管理者及び民間施設所有者並びに当局において港湾施設の維持管理業務等に従事する職員を対象に、港湾施設の適切な維持管理に対応すべく実務技術の取得とスキルアップ向上を目的に、標記講習会を平成28年度から継続開催しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を着実に実施したうえで第2回を仙台塩釜港(仙台港区)において開催しました。

<背景>

港湾の施設は、高度経済成長期に集中的に整備され、現在老朽化が進行している状況にあり、港湾の基幹的役割を果たす岸壁では、建設後50年以上の施設が2019年の約2割から、20年後の2039年には約7割まで増加する状況にあります。このような中、老朽化が起因とみられる港湾施設の損傷事故が増加傾向にあり、維持管理計画に基づく適切な維持管理の推進が求められています。

<開催概要>

○会場: 仙台塩釜港(仙台港区)

○日時: 令和2年10月13日(火) 13:30～10月14日(水) 15:00

○参加者: 14名(港湾管理者6名、民間事業者6名、東北地方整備局2名)

○内容

1日目は、港湾施設の維持管理に関する技術情報(基礎的な知識、維持管理計画の策定方法、LCC 計算プログラムの概要、施設の点検診断計画・点検診断手法、総合評価、直営による施設の点検診断手法、補修工法等)について講義を行いました。

2日目は、実際に岸壁において、海洋・港湾構造物維持管理士からアドバイスを受けながらの施設の点検診断実習や、現場実習についてのグループ討議、直営による維持管理計画書の作成と点検・診断に関する実習を行いました。

受講者は講師の話に熱心に耳を傾けるとともに、討議においても活発な意見交換がなされ、港湾施設の維持管理に対する関心の高さが伺えました。

参加者からは、「基礎的な知識を習得することができ非常に有意義だった。」、「GPS機能付きカメラやドローン等を利用した点検診断を積極的に活用していきたい。」等の感想が聞かれ、本講習会で学んだ内容が今後、港湾施設の適切な維持管理に活かされることに期待します。



【講習会状況】



【点検診断実習状況】



【計画書作成実習状況】